

8. 試験研究方法

- (1) 試験蚕期：晩秋蚕期（8月25日掃立）
- (2) 供試蚕品種：郡秋×秀月
- (3) 供試頭数：1区2,000頭
- (4) 試験区：対照区（養蚕V.Sは使用せず、1～5齡カビノランで蚕体、蚕座消毒）
 - 養蚕V.S区（養蚕V.Sを散布基準により使用、カビノランは使用せず）
 飼育型式一両区とも 1～2齡防乾飼育、3齡普通育、4～5齡屋内条桑育
 養蚕V.S散布基準（1箱当り）V.S使用基準通り

9. 主要成果の具体的図表

(1) 飼育成績

試験区	減蚕歩合 (4齡～5齡)	繭重	繭層重	繭層歩合	4齡起蚕 万頭収繭量	同繭代
対照区	6.8%	1.89 g	47.1cg	24.9%	16.9kg	40,338円
養蚕V.S区	6.6	2.01	49.4	24.6	17.5	41,368

(2) 繰糸成績

試験区	選除繭歩合	繭糸長	解じょ率	格	生糸量歩合	繭糸繊度
対照区	0.2%	1,313m	84%	優	20.8%	2.75 d
養蚕V.S区	0.7	1,388	80	優	20.6	2.73

(3) 農家における成績（出石郡出石町桐野）

農家	飼育量	4～5齡桑品種	繭重	箱当り収繭量
養蚕V.S 使用農家（1戸）	2.81箱	一ノ頼	2.10 g	32.7kg
対照農家（3戸）	8.44	一ノ頼	1.98 (2.10) (2.05) (1.80)	27.8 (32.4) (25.7) (25.3)

（晩秋蚕一8月26日掃、郡秋×秀月）

10. 結果の概要、要約

(1) 飼育成績

養蚕V.S区は、対照区に比して減蚕歩合は変わらないが、繭重、繭層重はやや重く、4齡起蚕万頭収繭量もやや多かった。

(2) 繰糸成績

養蚕V.S区は、対照区に比して選除繭歩合やや劣り、繭糸長がやや長い他は、ほとんど差がなかった。

(3) 繭代

4齡起蚕一万頭当り繭代は、対照区40,338円、養蚕V.S区41,368円で後者が1,030円多かった。

(4) 農家における成績

出石町桐野の一農家において、晩秋蚕期に養蚕V.Sを使用、繭重重く蚕作良好であった。農家の感想は、蚕座がさらさらしており気持ちよかったということである。

11. 今後の問題点

宮城県蚕業試験場、愛媛県養蚕試験場においても同様の試験が行われ養蚕V.Sの使用により繭重、繭層重、収繭量がやや増加している。

経済効果は繭代増収分と使用養蚕V.S代の差が指票となるが、他に蚕座が清浄で片付け作業が容易となる利点もある。なおカビノラン等の殺菌剤の併用をさねねばならないので、こうじかび病、硬化病との関係も考慮する必要がある。